

島内・町地域総合環境向上協議会（松本市）

・組織の活動面積 A= 30.53 ha	組織形態	共同活動 ■	中山間直接支払 □	向上活動 ■
・組織の構成員数 約 94 人	取組開始年度	平成19年～	—	平成23年～

構成員	町 町会、農業者、氏子、子ども育成会（島内小学校小PTA）、高齢者健康クラブ、若旦那会 等
-----	---

組織の概要

- ・農地は、食糧生産の基礎的な資源であるとともに、豊かな農村風景を形成し町住民の原風景となっている。基盤整備がされなかった車屋堰周辺水田には、ゲンゴロウ、コオイムシ、ガムシなど貴重な動物が生息し、子どもたちの自然観察、体験学習の場の機能を有す。
- ・崖下堰・車屋堰・中島堰等の農業用水は、安全な農産物を育むと共に、カジカ、マス、ゲンジボタル等清水に生息する貴重な水生動物を育てる。
- ・拾ヶ堰・勘左衛門堰の大きな堰を有し、堰の堤防は広い面積を有し遊歩道等有効利用を行い心と体の健康維持に活用したい。

環境保全活動を行い、ふるさとの「宝」を 次世代へ



★車屋堰の自然環境を守る為堰の清掃、外来種オオカワジシャの駆除、植樹、土道の手入れ等を行っている、又堰横の田んぼを小学生に提供している。

- ①小学生の生物研究に役立っている。又、農業体験（どろんこ遊び、田植え、稲刈り、脱穀）の場を提供する。
- ②田んぼの生き物の研究にも役立っている。
- ③7月末に車屋堰周辺で町会の行事、夏祭り子どもの日灯籠流し（花火大会、灯籠流し）を松明30本を立て、又、篝火を焚き盛大に行われる場となっている。

★車屋堰の道に竹の柵を設け均しウツチップを弾き、拾ヶ堰は堤防にある大きな樹木を切り、堤防を均し法面に菜の花育て柵を設け、ウツチップを弾き遊歩道を作った。

・地域住民の犬の散歩、ジョキングの場となり夏は車屋堰に蛍の乱舞が見られる、健康維持に役立っている。



拾ヶ堰



車屋堰

★車屋堰・崖下堰の四カ所を選び、どのような生き物が生息しているか今年度(H25年度春)から子供も交え採取し、名称調べ写真撮りを開始した。

- ①生物の生態を調べ、生物が生育してゆくための環境を作る。
 - ・清掃の時期、外来種の駆除 等の参考にする。
 - ②春・夏・秋・冬毎に分け生物の生育を調べる。
- ◇調査結果をマップ若しくは、小冊子にしたい。
◆マップ若しくは小冊子を持ち、町内の親が子ども・孫と採取し名称を知り一緒に楽しみたい。

